
第1回「在宅医療・介護連携における多職種研修会」を開催しました

2017年9月28日（木）18時30分～20時迄、医師会館3階・講堂において開催。

札幌市の静明館診療所の友宣先生による講演（演題：『在宅医療・はじめの一步 ～チームで支える高齢者ケア～』）と、平成醫塾苫小牧東病院の亀山慶医療ソーシャルワーカーによる事例紹介（テーマ：『中心静脈栄養が必要な高齢者の在宅療養への退院支援について』）を行いました。

研修会には、医師7名、看護師37名、歯科医師8名、歯科衛生士2名、薬剤師19名、リハビリスタッフ18名、介護支援専門員41名、医療ソーシャルワーカー15名、他、社会福祉士、管理栄養士、医療事務、苫小牧保健所職員、苫小牧市職員と170名を超える参加がありました。

多職種により構成されたグループでのフリートークは『在宅医療をすすめるための壁』というテーマで活発な意見交換がありました。

「医療連携室のある医療機関はよいが、ソーシャルワーカーのいない医療機関との連携が難しい。」「介護側では、医療では何をやっているのか、医療側では、介護では何をやっているのかよく把握していない。それぞれの人たちがどんな仕事、どんな専門性をもっているのか、考え方が違うことをまず踏まえ、自分の立ち位置はどこかを考える事が必要。」「病棟と在宅との連携やカンファレンスを早め早めに行うべきである。早めの情報交換、情報共有があると修正がしやすい。」「在宅歯科では処置の限界がある。医療情報の不足がある。」「今回のような集まりを重ね、顔の見える関係を作り、わからないことを気軽に聞けるようになればよい。」など具体的な意見が出されました。

また、研修会終了後には、同会館4階にて講師を交えての懇親会を開催し、参加者約60名で明日からの具体的な連携の取り方などについて話が弾んでいました。

ご参加の皆様、ご協力本当にありがとうございました。



平成29年9月28日在宅医療・介護連携推進のための多職種研修会

フリートークのまとめ「在宅医療を進めるための壁」

介護側では医療では何をやっているのか、医療側では介護が何をやっているのかお互いの役割、専門性が理解されていない。
 病院側で知りたい情報と在宅側で知りたい情報が食い違っている。
 退院前カンファレンスで、できるだけ早く情報共有が必要。
 多職種での研修の機会を増やし顔の見える関係づくりが必要。

